

Moodle を利用した協働学習コミュニティ

品川恭子

要旨

カリフォルニア大学サンタバーバラでは、二年生日本語クラスで、2007年秋学期より Course Management System (CMS) の一つである Moodle を使用している。Moodle はシラバス、課題の提示などの掲示板的な機能だけでなく、協働学習を支援する様々なモジュールが備えられている。このいくつかの機能を利用し、協働学習のコミュニティの育成を目指した。

本稿では、まず、Moodle と Moodle 使用への背景について述べ、それを利用したアクティビティを紹介する。そして最後に学習者のフィードバックを報告するとともに、日本語教育での Moodle 利用の可能性について考察する。

【キーワード】 Moodle、協働学習、社会的構成主義教育法

1. はじめに

現在、教育機関では、Web CT、Blackboard、Moodle などの e-Learning システムが導入され、ネットワークを利用した様々な協働学習が行われている。それにより、教室内だけでなく教室外での教師と学習者、学習者間のコミュニケーションが可能になった。これは、特に外国語教育での学習環境に大きな影響を与え、外国語教育での利用が広がりつつある。

本学の日本語プログラムの二年生でも、2007年の秋学期より Moodle を導入した。初めは、シラバス、スケジュール、課題などの学習リソースの提示などの掲示板的な機能だけの利用であったが、徐々に Moodle のモジュールを利用し、教室内外での協働学習を実践した。

Moodle の導入の背景として、アメリカでの日本語クラスの場合、教室以外日本語に触れる機会があまりないため、教室外でも日本語に触れる環境を提供

する必要があった。また、日本語学習者間のコミュニケーションを促す協働学習のためのコミュニティを形成したいという要望もあった。

本稿ではまず、Moodle の概略、日本語二年生での Moodle 使用例の紹介、その効果の報告、そして日本語教育での Moodle の可能性を考察する。

2. Moodle

Moodle はオープンソースの学習管理システムでオーストラリアの Martin Dougiamas 氏によって開発された。Moodle とは、Modular Object-Oriented Dynamic Learning Environment の略称で、社会構成主義の教育理念に基づき協調学習を支援する多くのモジュールを備えている。そのため、今までのコースウェブサイトでの、スケジュールやシラバスの掲示、教材のダウンロードという機能に加えて、教師と学習者の間、学習者間での双方向のコミュニケーションを行うことができる。教師は自宅で問題作成や学習者の提出した課題のチェックができ、学習者はコンピュータにアクセスさえあればどこでも学習ができるので、特に遠隔授業（オンラインコース）で広く利用されている。同じような機能を持つ Web CT、Blackboard などは有料であるのに対して、Moodle の場合はオープンソースということで無料で利用できる。また、他の学習管理システムに比べて使い方が極めて簡単で、コンピュータの知識があまりない教師も簡単に利用できるという特徴がある。現在、世界 193 カ国で 75 以上の言語で利用されており、アメリカでは、多くの大学のメディアセンターが大学単位で Moodle を使用、管理をしている。

2.1 Moodle の教育理念

Moodle は社会的構成主義教授法 (social constructivism pedagogy) に基づいて開発されたものである。社会的構成主義とは、学習者がそれぞれの環境におき、相互作用することにより新しい知識を構成するというもので、元々、Vygotsky によって提唱された。これに基づき、近年外国語教育における CALL (Computer-Assisted Language Learning) のタイプは、語彙学習、文法学習などの Drill and Practice CALL から、コンピュータを媒介として学習者間の協働学習ができる Collaborative CALL へと移行してきた。この代表とされる e-Learning システムには Moodle や Web CT があり、これが外国語教育にお

いて注目されるようになってきた。Moodle などの利用により従来の CALL での学習にありがちな単調さが軽減され、協働学習によってお互いに刺激をし合い、学習効果をあげることが期待されるのである。Moodle の開発者 Martin Dougiamas はその教育理念について以下のように述べている。

“All of us are potential teachers as well as learners. We learn particularly well from the act of creating or expressing something for others to see.

We learn a lot by just observing the activity of our peers.”

Moodle には、この教育理念を実現できる様々な機能（モジュール）が備えられている。また、Moodle のサイトには利用者のコミュニティが形成され、情報交換の場が提供されており、日々開発が続けられている。

2.2 Moodle のモジュール

Moodle には外国語教育において協働学習を支援するための多くのモジュールがある。以下、主なモジュールの概要である。

- **Assignment Module**
課題を配付、また提出された課題の受付管理ができ、それぞれの学習者へのフィードバックが個別にできる。
- **Glossary Module**
参加者（学習者）が共同で、単語の定義などの辞書が作れる。検索も可能である。
- **Quiz Module/Lesson Module/ Survey Module**
小テストやアンケートを作り、オンラインで答えさせ、その結果を自動的に集計できる。
- **Resource Module**
ワードの書類、パワーポイント、フラッシュ、ビデオ、音声などの教材を簡単に掲示できる。また、ウェブサイトへのリンクが張れる。
- **Forum Module**
教師と学習者の間、または学習者間で、記事を投稿、ディスカッションができる。出された記事に対するコメントは、レイヤー表示で見られる。また、これを使って、教師が、参加者全員にメールで伝達事項を配信できる。

この他に、トラッキング機能で、学習者がそれぞれの活動にどれだけ参加したか等の学習状況をモニターすることができる。また、チャット、Wiki¹が、あらかじめ備えられている。

2.3 Moodle 利用への背景

アメリカの大学では多くの講義のクラスにおいて Moodle が利用されている。その主な利用目的は、教材の提示、配付である。また、学生数が多い講義のクラスでは、そのクラスの中の TA (Teaching Assistant) 担当のクラス単位でのディスカッションなどに利用されている。外国語においては、Moodle は、前述のように特に遠隔授業（オンラインコース）での利用が多い。それは、普通のオンラインで得られないコミュニケーションを補えるという理由からであろう。しかし、Moodle は遠隔学習だけでなく、普通のクラスの学習支援ツールとしても大きな効果が期待されると言える。これに関し、Brandl (2005) も “it purports to create an environment that allows for collaborative interaction among students as a standalone or in addition to conventional classroom instruction.” と言っている。

今回 Moodle を普通の日本語のクラスに使用したいと感じたのには、二つの大きな理由があった。クラス内でのコミュニケーションを高めたいことと、教室外での日本語への接触の機会をもっと与えたいということである。

本校の二年生日本語は週に 5 時間のコースである。毎日、課題があり、クイズ、発表なども多く、学生には大変忙しいクラスであるものの、本学には日本人も少なく、ほとんどの学生にとって日本語と触れるのは授業内だけである。普段、授業内ではレッスンをこなすのにほとんどの時間が費やされ、ビデオなどの視聴覚教材を見せる時間がほとんどない。また、教室にはプロジェクター、コンピュータの接続設備がないため、学生に役立つようなウェブサイトや You Tube のビデオなどを見つけても、教室で紹介することができないという状況である。Moodle により、今まで、教室内で紹介できなかったサイトのリンクや自主制作ビデオをアップロードして教室外でもっと日本語に触れる機会を増やしたいと感じていた。

もう一つの理由は、クラス内でのコミュニケーションの育成である。アニメやビデオゲームの人気のため、本校での日本語学習者は、依然多いのであるが、

近年、学生の気質が以前と比べて、変わって来たようである。「オタク系」の学生がおおよそ 70%から 80%で、そのためなのか、あまりクラスメートとコミュニケーションをしない傾向にある。その結果、授業で自主的な発言が少なかったり、学期の終わりまでお互いの名前を知らなかったりすることさえもある。このような状況を改善するために Moodle の協働学習のモジュールを利用して、もっと学生がお互いについて知り合い、刺激し合って学習できるコミュニティの形成を目指したいと思った。

また、これらの教師としての必要性に加えて、他の大きな理由は、Moodle の使いやすいという利点である。長年ウェブサイトを作りたいと願っていたのであるが、コンピュータの知識の欠如から実現することができなかった。Moodle のコンテンツ作成機能の使いやすさやインターフェイスの見やすさで、不安なく使用してみようと感じた。

3. 二年生日本語クラスでの Moodle 実践例

カリフォルニア大学サンタバーバラは一年に秋、冬、春学期のクォーター制である。二年生日本語のクラスは、Japanese 4（4 学期目日本語）、Japanese 5、Japanese 6 と呼ばれており、学生数は全体で 50 名から 60 名ほどで 4 クラスある。使用教材は、Japanese 4 はジャパントイムズの「げんき II」第 16 課から第 19 課、Japanese 5 は第 20 課から第 23 課、Japanese 6 ではスリーエーネットワークの「トピックによる日本語総合演習：テーマ探しから発表へ（中級前期）」を使っている。Moodle は一年を通して活用したが、今回は、冬学期の Japanese 5 での実践を中心に紹介する。

まず、Course Management System としての例を紹介する。そして、協働学習の実践例をいくつか紹介する。

3.1 CMS としての活用例

Moodle を使って、授業に関連する資料の配信、リンクの提示を中心に行った。図 1 が Moodle のレイアウトである。一番上のコラムにコース全体に関する資料、リンクが載せられるようになっている。ここではシラバス、教科書のリスニング（会話、単語、活用練習、リスニングの宿題）、日本のニュースのビデオ（TBS ニュースⁱⁱ）、漢字の書き順のリンクⁱⁱⁱなどを載せている。

図 1



その下からは、ウィークリー・フォーマットになっている。ここではその週の授業単位の情報を載せている。試験がある時はその試験勉強に役立つ情報や練習のリンク、リスニングの課題を出した後はリスニングの答えやスクリプトを載せ、自分で確認できるようにしている。学習者にとって、このように使いやすく見やすいインターフェイスになっている。

左側に「参加者」というモジュールがある。(図2) ここには学習者(参加者)全員のプロフィールを載せることができる。ここをクリックすると二年生学生全員の名前、さらに学生一人一人のプロフィールが見られる。このプロフィールには、秋学期は自己紹介、冬学期は自己紹介と冬休みについて、春学期は自己紹介と春休みについて書かせた。今までは各学期の初めに同じ課題をハンドアウトで提出させていたが、その場合は教師とその学生との間のコミュニケーションにしかならなかった。この「参加者」のページは新しいクラスメートについて知り合ういい機会になり、その後のコミュニティ形成に効果的であると言える。また、半分以上の学生が自分の名前の横に「Facebook^{iv}」に載せているような凝った写真を掲載したり、自己紹介の中に自分の好きなアーティストのリンクなどを張り、個性的なものを作っている。

図 2



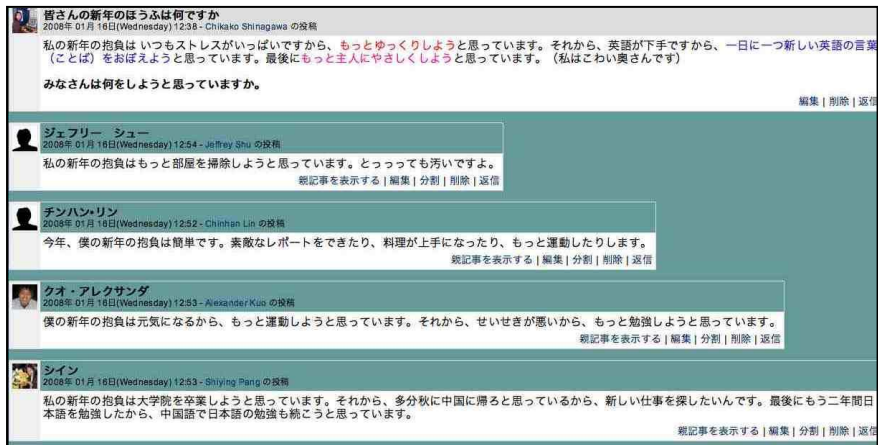
3.2 協働学習の実践例

Moodleには様々なモジュールが備えられているが、二年生日本語のクラスでは、主にフォーラムモジュールを利用した。以下、その実践例を紹介する。

3.2.1 新年の抱負

冬学期は、新年早々始まる。学期の初めに、「日本のお正月」というテーマに関する読み物を読み、日本のお正月と学生それぞれの新年の祝い方との比較、日本の年号、干支などについて学習した、そのレッスンの一環として「新年の抱負」について取り上げた。Moodleサイトのフォーラムに学生それぞれが自分の新年の抱負について投稿し（図3）、お互いにそれを読み合いコメントをし合ったりした。この活動の前後にクラスでもそれについて話し合った。これは極めて、単純な活動であり、話し合うことは通常の授業でも行っているのであるが、このようにMoodleサイトで投稿し合うことにより、より多くの学習者間のコミュニケーションが可能になった。さらに、時間的制約のためにできなかった話題についてこのようにMoodleで補うことができた。また、感謝祭やクリスマスの長い休みの間にも、これを利用し、休みをどう過ごしているか、コミュニケーションを取り合うこともできた。

図 3



3.2.2 ビデオ教材

Moodle サイトにいくつかビデオ教材を載せた。使用したものは、自作のビデオの他、その時々々の学習の内容にあったものを **You Tube** から取り上げた。ビデオ教材の利用法としては (1) ビデオを見るだけで、課題として何も要求しない (2) 学習者は課題としてビデオを見て、何らかのタスクをするという二種類設けた。

(1) の場合は、例えば、教材の中に「おせち料理」「北海道の雪まつり」など日本の文化的なものが出てきた時に、それに関する適切なビデオを **You Tube** から探し Moodle サイトにリンクを張り、学生に視聴するように指示、そして、クラスではその後にビデオの感想をお互いに話し合ったりするというものである。今までは「おせち料理」の写真を探したり、適切な写真が見つからない場合、絵を描いたりしていたが、**Moodle** によって実際のものがタイミングよく見せられるようになった。

(2) の場合は、主に授業でのディスカッションのためのインプットとしての利用である。主に以下のような流れでこの課題を行った。

1. 授業でその課の単語、文型練習をする。
2. その課の内容と文型に関連したテーマについての読み物をする。
3. 宿題で Moodle サイトのビデオを見て、ビデオを見てわかったこと、意見、教師からの質問への答えなどをフォーラムの掲示板に載せる。そして、Moodle 上でクラスメートとそれを交換する。

4. 授業で、そのテーマについて話し合う。
5. まとめとして、作文を書き、Moodle のフォーラムの欄に作文を投稿する。そして、クラスメートの作文を読んでコメントをフォーラムに投稿する。

このような流れで、各レッスン様々なテーマでのビデオを取り上げた。ここではこの中の「教育」というテーマでの実践例を紹介する。

3.2.2.1 ビデオ教材実践例 テーマ「教育」

「げんき II」の第 21 課の主要な文法項目は使役形「～させる／～させてあげる／～させてくれる」で、テーマは教育である。この課を始めて、使役形その他の文型練習、単語練習がある程度進んだ時点で、YouTube からのビデオを課題として出した。使用したビデオは、私立中学受験を目指す 12 歳の小学生とその家族を取材したテレビのドキュメンタリー番組の一部で、6 分ほどの長さである。ビデオには、合格発表を見て、泣いている父親や、友達と抱き合っていて泣いている女子生徒が見られ、受験の厳しさがよく表れている。学生はこれを見て、感想を日本語で投稿する。この課題は教師がフォーラム上（図 4）に YouTube へのリンクを張り、ビデオの中の新出単語リストと共に投稿した。


図 4

宿題 # 30
二つの You Tube を見て、質問に日本語で答えてください。

1 You tube 「日本の子供」 (Click here for viewing) の質問
あなたは子供の時、何に熱中（ねっちゅう）していましたか。
今は何に熱中していますか。

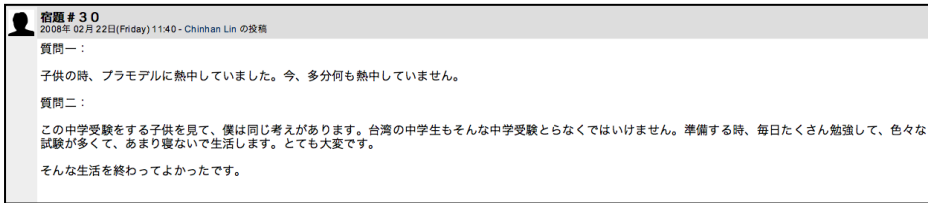
2 You tube 「中学受験」 (click here for viewing) の質問
あなたはこの中学受験をする子どもを見てどう思いますか。
どうしてですか。

単語（たんご）：
 中学受験（ちゅうがくじゅけん）entrance exam for a junior high
 合格（ごうかく）to pass the exam
 発表 announcement, posting
 第一志望（だいいちしぼう）the first choice
 私立（しりつ）private 公立（こうりつ）public
 入試（にゅうし）entrance exam 誘惑（ゆうわく）temptation
 大晦日（おおみそか）New Year's Eve



下記（図 5、6）は学生の投稿の例である。

図 5

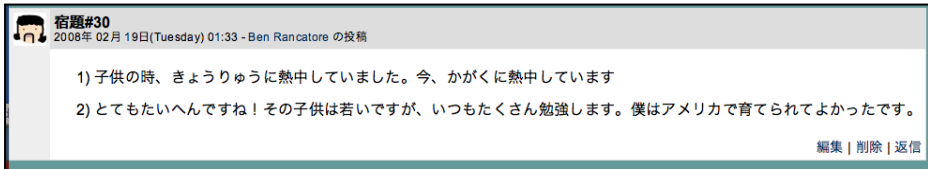


宿題#30
2008年 02月 22日(Friday) 11:40 - Chihhan Lin の投稿

質問一：
子供の時、プラモデルに熱中していました。今、多分何も熱中していません。

質問二：
この中学受験をする子供を見て、僕は同じ考えがあります。台湾の中学生もそんな中学受験とらなくはいけません。準備する時、毎日たくさん勉強して、色々な試験が多くて、あまり寝ないで生活します。とても大変です。
そんな生活を終わってよかったです。

図 6



宿題#30
2008年 02月 19日(Tuesday) 01:33 - Ben Rancatore の投稿

1) 子供の時、ぎょうりゅうに熱中していました。今、かがくに熱中しています
2) とてもたいへんですね！その子供は若いですが、いつもたくさん勉強します。僕はアメリカで育てられてよかったです。

編集 | 削除 | 返信

ビデオを見ての感想は、台湾出身の学生（図 5）からは「自分も同じように受験を経験した。そんな生活が終わってよかった」、アメリカ人の学生（図 6）は「日本の子供はかわいそう。アメリカで育ててよかった」など、単に「かわいそう」だけの感想ではかく、自分達との経験と比べたコメントが多かった。

この課題の後、授業で「教育」というテーマで「自分が子供の時にさせられたこと／させてもらったこと」「将来、どんな親になりたいか」についてディスカッションを行った。ディスカッションの前作業として、課題に出したビデオについての感想を聞くと、多くの学生より、即座に反応があり、いいインプットになったようである。また、「どうして、義務教育なのに中学を受験しなくてはいけないか」という疑問も出され、「私立の中学に入ってしまうと、苦労をせずに大学まで進める」という教育事情や「公立学校離れ」という教育問題などについても話し合うことができた。そして、最後に「子供の時の思い出」というテーマで作文を課題として出した。作文の第一稿は手書きで提出、書き直した最終稿を Moodle サイトのフォーラム上に投稿させた。そして、お互いにそれを読み合い、コメントを書かせた。

3.2.3 作文

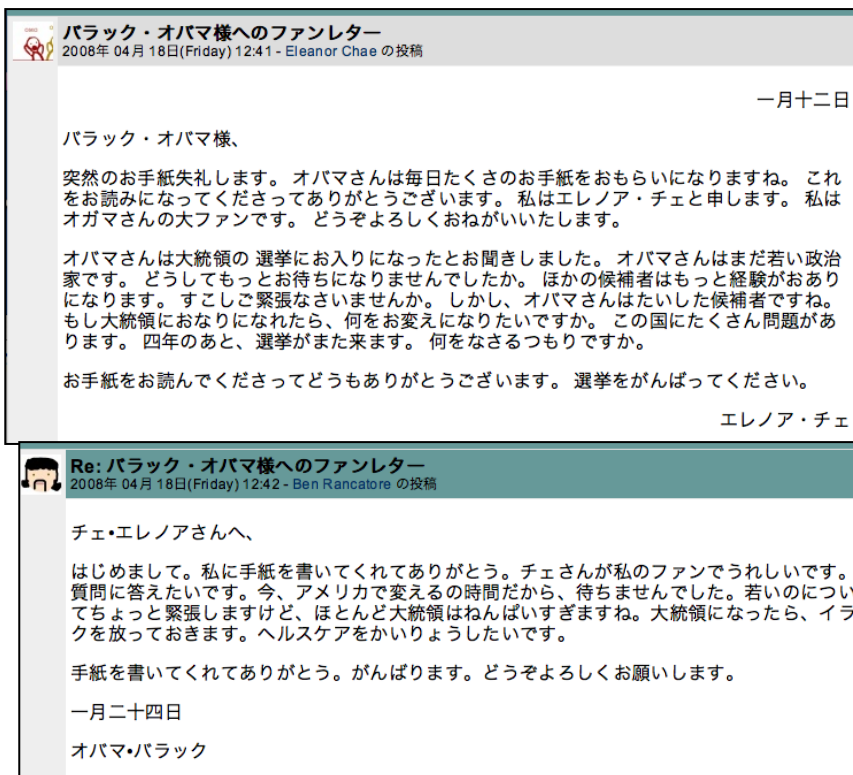
各学期、学習項目に関連した作文を三つから四つ課題に出している。Moodle の使用以前は、書き直し後、紙にタイプした最終稿を教師に提出させ、

教師がコメントを書くだけであった。今回、Moodle のフォーラムを使って Moodle 上に投稿し、他の学生の作文を読み、コメントを書き合うという活動をさせた。以下その実践例の一つを紹介する。

3.2.3.1 作文の実践例 「有名人へのファンレター」

敬語の学習時に、「自分が好きな有名人にファンレターを書く」という課題を与えた。この課題を与える際に、全ての有名人は日本語が理解できるという前提で行った。学生が書いたファンレターの相手には、宮崎駿、Gackt、村上隆、荒川弘、嵐^v など日本の有名人が多く見られた。書き直した最終稿を Moodle サイトに投稿、その際、その有名人を他の人が知らない場合に備えてその有名人に関する情報が得られるサイトのリンクも載せさせた。学生はファンレターを投稿後、今度は、投稿された他のファンレターを読み、その人物になって返事を書き、それを投稿させた。返事は、教師が指定した特定のファンレターと自分の選んだファンレターの最低二つに返事を書くこととした。

図7 バラク・オバマへのファンレターとその返事



The image shows a screenshot of a Moodle forum thread. The top post is titled "バラック・オバマ様へのファンレター" (Fan letter to Barack Obama) and is dated "2008年 04月 18日(Friday) 12:41 - Eleanor Chae の投稿". The post content is as follows:

バラック・オバマ様、

突然のお手紙失礼します。オバマさんは毎日たくさんのお手紙をおもらいになりますね。これをお読みになってくださってありがとうございます。私はエレノア・チェと申します。私はオガマさんの大ファンです。どうぞよろしくおねがいいたします。

オバマさんは大統領の選挙にお入りになったとお聞きました。オバマさんはまだ若い政治家です。どうしてもっとお待ちになりませんでしたか。ほかの候補者はもっと経験がおありになります。すこしご緊張なさいませんか。しかし、オバマさんはたいした候補者ですね。もし大統領におなりになれたら、何をお変えになりたいですか。この国にたくさん問題があります。四年のあと、選挙がまた来ます。何をなさるつもりですか。

お手紙をお読んでくださってどうもありがとうございます。選挙をがんばってください。

Eレノア・チェ

The bottom post is a reply titled "Re: バラク・オバマ様へのファンレター" and is dated "2008年 04月 18日(Friday) 12:42 - Ben Rancatore の投稿". The reply content is as follows:

チェ・エレノアさんへ、

はじめまして。私に手紙を書いてくれてありがとう。チェさんが私のファンでうれしいです。質問に答えたいです。今、アメリカで変えるの時間だから、待ちませんでした。若いについてちょっと緊張しますけど、ほとんど大統領はねんばいすぎますね。大統領になったら、イラクを放っておきます。ヘルスケアをかいりょうしたいです。

手紙を書いてくれてありがとう。がんばります。どうぞよろしくお願ひします。

一月二十四日

オバマ・バラック

図7にその一例を挙げた。その当時のアメリカ大統領候補であったオバマへのファンレターとそれに対する返事である。これを見てみると、適切な敬語の使われ方、手紙の初めの挨拶、本文、終わりの挨拶というきちんとした手紙のフォーマットが見られる。アメリカで敬語を教える際、教師以外、実際に学生はなかなか敬語を使う機会がなく、また、聞くこともないので、授業での練習は「教師と学生」「会社の社長と部下」というようなマンネリ化した状況設定の練習になってしまいがちである。この活動は学習者にとっては、自分が好きな有名人に書く、自分の友人が書いたものを読むという点で興味深く取り組めるものであろう。従来の作文活動では教師からコメントをもらうだけであったのに対して、他の学生からのコメントをもらえると嬉しく感じ、また、何が書いてあるのかという興味も増す。Moodleでのこの活動は、学習者にとって難しい学習項目の一つの敬語の学習意欲を高め、効果的なものであった。

3.2.4 プロジェクトワークでの実践例

二年生日本語クラスでは、グループ、またはペアでいくつかプロジェクトワークをさせている。そのテーマは、Japanese 4では、自分が行きたい日本の大学について、Japanese 5では、アメリカの文化について、Japanese 6では、アンケート調査、お祭りについてなどである。手順は、「グループを決める⇒テーマを決める⇒調査活動⇒発表のための原稿を提出⇒原稿の直し⇒最終原稿の提出⇒クラスでの発表」という流れで行う。今回、このプロジェクトワークの過程の中でMoodleを次のように利用した。

1. プロジェクトのテーマについてのグループでの話し合い
2. テーマとテーマの概要
3. クラスメートの発表の相互評価 (peer evaluation)

これら全ての活動はコンピューターラボで行った。まず、1.と2.のグループでのテーマについての話し合う過程では、ある程度まとまったものができた時点でMoodleに投稿する。そして、他のグループのアイデアを見て、さらにグループで話し合い、テーマを絞っていく。最終的にどんなことをするか決まった時点で、テーマと概要を改めて投稿させた。

今まで、問題になっていたこととして、あるグループとあるグループの発表の内容が重なり、教師からテーマの変更を勧めても、すでに調査が進んでおり

変更が無理であるということが何度かあった。今回、最初の段階において Moodle 上でモニターし合うことによりその問題が解決され、重複するテーマは一つもなかった。また、他のグループのアイデアを見るのが刺激になり、グループ間での話し合いが以前より敏速かつ活発になった。

3.の発表時の相互評価に関しては、今まではハンドアウトで相互評価表を配り、発表を聞きながら記入させ、それを回収後、教師がそのグループに渡すというようにしていた。今回は Moodle 上に発表の後、すぐ評価を投稿させた。これを試みて、以前に比べていくつかのプラス効果が得られた。特に感じたのが、学生のコメントの内容の変化である。以下、学生のコメントのいくつかを紹介する。

“Shows extensive understanding of the language in both written and oral form.”

“Convenient register of newly presented vocab.”

“Great job on involving the audience - it really brings the presentation to life.”

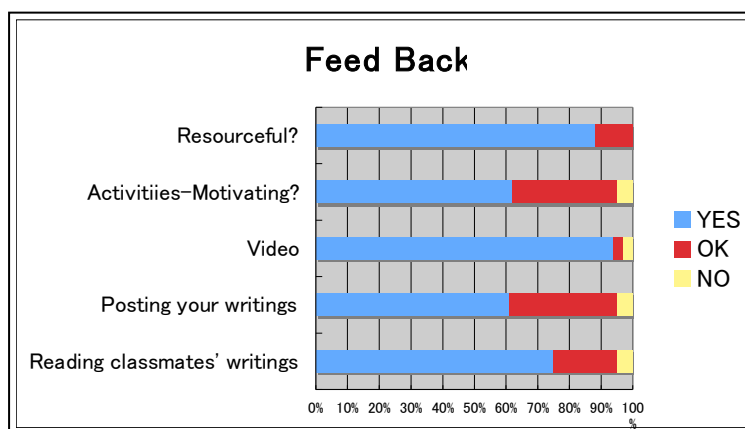
“Your lines flowed very well and you had no stuttering which really showed your practice as well as you Nihongo really coming along.”

“I suggest to introduce some new vocabularies or put Hiragana above the Kanji.”

今までの相互評価の場合は “Very Entertaining” “Great Job!” のような肯定的で単純なものが多く、相互評価をさせている意義をあまり感じていなかった。しかし、Moodle 上でのコメントは、上の例に代表されるように建設的、論理的なものになった。依然、肯定的なコメントが多いが、ただそれだけでなく、どうしてそう思うのかという理由が見られた。また、改善点を指摘するものも多く見られた。これは、Moodle 上でみんなに見られるため、きちんとした評価をしなくてはという責任感を促した結果からだと思われる。また、コメントを書くためにクラスメートの発表を集中して聞くようになった。一方、コメントをもらう学生にとっては、フィードバックがすぐに見られるということは、よりインパクトがあり、励みになると同時に、改善点についてもより強く反省できると思われる。

4. 学習者のフィードバック

この一年、初めての日本語クラスでの Moodle の使用にあたり、著者担当の二クラス学生 35 人にフィードバックをした。フィードバックは主に協働学習アクティビティについての学生の感想、意見を求める質問が中心である。下の表がその結果である。



アクティビティについて、「やる気をもって楽しくできた」という答えは全体の 62%、「楽しくなかった」は 5%、「どちらでもない」は 33%であった。アクティビティの中では、ビデオを使ったものが特に人気があり、ほとんどの学生が「意欲的にかつ楽しくできた」という答えであった。また、「クラスメートの作文やコメントなどの投稿を読むのがとても楽しかった」という答えが 75%であった。その一方、自分自身の書いたものを投稿することに関しては、それほど肯定的ではなかった。実際に 3 人の学生から「みんなに見られるのが恥ずかしい／いやだ」というコメントがあった。しかし、逆に 4 人の学生は「見られることで、もっと書くことに意欲的に取り組めた」とコメントしていた。

5. 結果、将来の可能性

この一年、Moodle を使用して主に以下のような効果が得られた。

1. 学習者がより意欲的に学習に取り組むようになった。
2. クラス内のコミュニケーションが促進された。
3. 視聴覚のリソースが増えた。

4. ハンドアウトが減り、また学生へ世話が軽減された。

Moodleでの学習で一番効果があったのが、読み書きの活動である。学生からのフィードバックには、特に「クラスメートの投稿を読むのを楽しんだ」という意見が多かった。Moodle上では、同じクラスの学生だけでなく、二年生の学生全員の投稿が閲覧できるので、学生によっては課題に与えられたものだけでなく、興味があれば他のクラスの学生の投稿も読んでいる。一般的に学生があまり好きではない読み書きの学習に、以前よりもっと自然に「読みたい」「書きたい」という気持ちで取り組むようになった。

クラスでの学生間のコミュニケーション度に関しては、具体的にそれを測るものはないが、教師として、クラスの雰囲気が和らぎ、とても教えやすくなったと強く感じる。今までは授業が始まる数分前、学生同士話をせずに黙って座っていることが多かった。それが、週末について話したり、宿題のチェックをし合ったり、Moodle上で見たビデオについて話したりするようになった。これは学生同士がよりお互いについて知り合うようになった結果だと感じる。また、授業でのディスカッションでは、予めMoodleでテーマに関連したビデオやサイトを課題として与えてあるため、学生の方から質問が出たり、より興味深い意見が出るようになったりし、今までの受け身的なものから自主的なディスカッションになった。Moodleでの協働学習がクラス内でのコミュニティ形成に大きく貢献したと感じる。

本来の目的の他にもいくつかの利点が見られた。今までハンドアウトで渡していた教材やリスニングの宿題の答えなどをMoodleに載せることにより、かなり印刷の手間が減り、また、採点の手間も減った。また、以前はよく学生から、紛失、欠席などの理由でハンドアウトをほしいとか、小テストの範囲がわからないなどのメールがよくあり、その都度対応していたが、そのような面倒もなくなった。

日本語教育におけるMoodleの可能性は大きい。今回、主にフォーラムを利用したが、他のモジュールも使用し、その可能性を探って行きたい。今後、Glossary Moduleを利用したクラス単位でのスラング辞書作成、上級のクラスで、Wikiを利用したグループでのcollaborate writingなどを試みたいと思っている。

注

- i ブラウザーから誰でも書き換えられる Web サイトを作成するシステムやソフトのこと。Wikipedia（ウィキペディア）はそれを使って作られている。
- ii TBS のニュースサイト（<http://news.tbs.co.jp/>）ニュースの動画とスクリプトが見られる。
- iii [www.kanji](http://www.kanji.genki.jp/self/wwwkanji.html) (<http://genki.japantimes.co.jp/self/wwwkanji.html>)
中部大学の小森早江子氏の漢字の書き順の動画のサイトに「げんき I」「げんき II」の漢字のリンクを張ったもの。
- iv 若者に人気があるフリーのソーシャルネットワーキングサイト (SNS) のパーソナルウェブサイト。
- v Gackt はシンガーソングライター、村上隆はポップアーティスト、荒川弘は漫画家、嵐はアイドルグループ。

参考文献

- 熊井信弘・境一三・西納春雄・安浪誠佑（2006）「Moodle を活用した外国語学習支援」『外国語教育メディア学会論文集』 pp. 551-562.
- Brandl, K. (2005) Are you ready to “Moodle”? Language Learning & Technology. Vol.9, No.2, pp.16-23.
- Dougiamas, M. and Taylor, P. (2003) Moodle: Using Learning Communities to Create an Open Source Course Management System. Presented at EDMEDIA 2003.
- Robb, T. (2004) Moodle: A Virtual Learning Environment for the Rest of Us. TESL-EJ. Vol.8, No.2.
- Seidl, M. (2005) Blended Learning with Moodle: Didactical and technical aspects of a Blended Learning Scenario with Moodle.
- Japanese 5 moodle site (<http://moodle.id.ucsb.edu/>)
- Moodle (<http://moodle.org/>)